

令和元年度 鹿児島聾学校 学校評価 保護者アンケート結果

保護者

◆ 実施期間

令和元年12月13日（金）～令和2年1月14日（火）

◆ 評価基準

4 = 十分達成 (80%以上達成) 3 = おおむね達成 (60%以上達成)

2 = やや不十分 (40%以上達成) 1 = 不十分 (40%未満達成)

◆ 評価ランク

A = 3.5以上 B = 3.0以上3.5未満 C = 2.5以上3.0未満 D = 2.5未満

◆ 回答数

幼稚園部13 小学部9 中学部11 高等部13 全体46 (回答率85.2%)

評価項目	全体 回答数	評価の平均					全体	ランク
		幼稚園部	小学部	中学部	高等部			
I 教育活動	1 基礎学力の定着を目指しながら、生きる力を身に付ける授業が、適切になされている。	46	3.85	3.33	2.55	3.46	3.33	B
	2 言語力、コミュニケーション能力の向上を目指した指導やかかわりが、適切になされている。	46	3.62	3.00	2.55	3.31	3.15	B
	3 望ましい生活習慣や社会性を身に付けるための指導が、適切になされている。	46	3.62	3.33	2.73	3.31	3.26	B
	4 個別の教育支援計画等について、保護者と十分に話し合われた内容を基に目標を設定し、子どもたちの成長を分かりやすく説明している。	46	3.62	3.56	2.73	3.00	3.22	B
	5 教職員の言葉遣いや態度など、教育公務員としてのマナーは適切であり、熱意をもって教育活動に当たっている。	46	3.92	2.67	2.18	2.85	2.96	C
II 教育環境	6 子どもたちが安全安心に学校生活を送ることができるための校舎内外の環境整備や保健環境の整備に努めている。	46	4.00	3.56	3.18	3.54	3.59	A
	7 教室の黒板や掲示板、廊下の掲示物等が工夫・整理され、子どもたちが情報を適切に収集するための環境が整えられている。	46	4.00	3.56	3.18	3.38	3.54	A
	8 子どもたち一人一人が、自分のもつよさや能力を安心して発揮できるような、教師と子どもたちの信頼関係が構築されている。	46	3.92	3.44	2.36	2.77	3.13	B
III 情報発信・連携	9 ホームページや各種たより、連絡帳等で、必要な情報や子どもの様子を分かりやすく伝えている。	46	3.54	3.67	2.73	2.92	3.20	B
	10 担任や学校は保護者の声に耳を傾けて、連携を取りながら、教育活動や学校運営を行っている。	46	3.77	3.11	2.82	3.00	3.20	B
IV 年間計画・行事	11 年間の計画は子ども、教職員、家庭にとって無理のない適切なものになっている。	46	3.46	3.11	2.91	3.00	3.13	B
	12 学校行事(入学式や卒業式、運動会や文化祭等)や各学部行事は、子どもにとって教育効果が高く意義あるものになっている。	46	3.77	3.44	2.73	3.15	3.28	B

令和元年度 鹿児島聾学校 学校評価 生徒アンケート結果

生徒

- ◆ **実施期間**
令和元年12月13日（金）～20日（金）
- ◆ **評価基準**
4＝とても思う（80%以上達成） 3＝やや思う（60%以上達成）
2＝あまり思わない（40%以上達成） 1＝全く思わない（40%未満達成）
- ◆ **評価ランク**
A＝3.5以上 B＝3.0以上3.5未満 C＝2.5以上3.0未満 D＝2.5未満
- ◆ **回答数**
中学部12 高等部15 全体27（回答率100%）

評 価 項 目	中学部評価		高等部評価		全体評価	
	平均	ランク	平均	ランク	平均	ランク
1 私の学校生活は、楽しくて充実していると思う。	3.33	B	2.87	C	3.07	B
2 先生たちは、授業で分かりやすく丁寧に教えてくれると思う。	3.33	B	3.00	B	3.15	B
3 学校の施設や設備は、安全で使いやすいと思う。	3.58	A	3.07	B	3.30	B
4 先生たちは、自分の困っているときや悩みがあるときによく相談にのってくれると思う。	3.33	B	3.07	B	3.19	B
5 友達との関係は、うまくいっていると思う。	3.33	B	3.33	B	3.33	B
6 学校行事や学部行事は無理なく参加できて、充実していると思う。	3.33	B	3.47	B	3.41	B
7 私は、社会や集団の決まりを守って規則正しく生活していると思う。	2.92	C	3.20	B	3.07	B
8 私は、将来の夢の実現に向けてよく努力していると思う。	2.83	C	3.27	B	3.07	B

令和元年度 鹿児島聾学校 学校評価 職員アンケート結果

職員

◆ 評価基準

4 = 十分達成 (80%以上達成) 3 = おおむね達成 (60%以上達成) 2 = やや不十分 (40%以上達成) 1 = 不十分 (40%未満達成)

◆ 評価ランク

A = 3.5以上 B = 3.0以上3.5未満 C = 2.5以上3.0未満 D = 2.5未満

◆ 回答数

幼稚部12 小学部14 中学部12 高等部19 寄宿舎19 全体76

部	No.	評価項目	自学部等による評価		他学部等による評価		全体評価	
			平均	ランク	平均	ランク	平均	ランク
幼稚部	1	保護者に教育相談や連絡を通して、十分な情報提供を行ったか。	3.42	B	3.40	B	3.41	B
	2	子供たちが伝えたいことを豊かな言葉で表現できるように支援しているか。	3.33	B	3.44	B	3.42	B
	3	発達段階を考慮し、思考を促す保育の実践ができたか。	3.17	B	3.32	B	3.30	B
	4	日常生活の中で聴力活用を促したか。	3.50	A	3.39	B	3.41	B
小学部	1	○児童が安心・安全に活動できるよう配慮した指導ができたか。 ・健康・安全の大切さや健康の保持増進や回復に進んで取組むことができたか。 ・教師と児童及び児童相互のより良い人間関係を育て、保護者との連携を大切にした学級経営ができたか。 ・集団場面での適切な指導や一人一人の課題に対する個別の指導を工夫することができたか。	3.43	B	3.23	B	3.27	B
	2	○確かな学力向上を目指して、言語概念形成やコミュニケーションの確実な習得などの指導ができたか。 ・行事や体験学習、交流及び共同学習を通して、学ぶ意欲や社会の変化への対応しようとする学びを深める指導ができたか。 ・「きくこと」「話すこと」「伝え合うこと」の困難さへの支援を授業の中で効果的に指導できたか。 ・「特別の教科道徳」や「外国語活動」「外国語」など学習指導要領移行期間の取組ができたか。 ・視覚的な情報を活用した教材教具の工夫やICT機器等の活用を積極的に行ったか。	3.50	A	3.20	B	3.25	B
	3	○児童の将来を見据えた取組みを、保護者や地域の関係機関と連携・協力ができたか。 ・学ぶことと自分の将来とのつながりに見通しがもてるよう、社会の決まりやマナーを守る態度や能力の育成を図ったか。 ・連絡帳や学級通信、学級PTAなどで保護者と情報を共有し、家庭や寄宿舎と連携・協力することができたか。 ・他学部や寄宿舎、地域の関係機関と情報交換をして、連携の充実を図ることができたか。	3.36	B	3.25	B	3.27	B
	4	○聴覚等に障害のある児童について、教育相談や交流及び共同学習の中で、専門性を生かした具体的な指導の工夫等の啓発ができたか。 ・聴覚口語法を基盤に、補聴器や人工内耳等の利用による効果的な学習活動ができたか。 ・児童の聴覚障害の状況等に応じた、音声・文字・手話・指文字等を適切に活用し、的確なコミュニケーションの指導ができたか。 ・地域や施設の人材を活用し、体験学習や問題解決学習等を取り入れ、聴覚障害理解啓発や地域社会との連携や協力ができたか。	3.36	B	3.23	B	3.25	B
中学部	1	社会や集団の決まりを守り、落ち着いた学校生活を送らせることができたか。 (基本的な生活習慣の徹底)	3.42	B	3.13	B	3.17	B
	2	学力向上を目指し指導法の工夫・改善に努めることができたか。 (授業の実践、ICTの活用、個に応じた指導の実践、学習環境の整備)	3.33	B	3.03	B	3.08	B
	3	将来の夢の実現に向けて、見通しをもてる指導ができたか。 (進路に関する情報提供等)	3.25	B	2.92	C	2.97	C
	4	家庭や各学部等に密に連携を図ることができたか。 (学級通信等による情報発信、連絡帳や学部・学級PTA等による情報共有、家庭や寄宿舎との連携・協力)	3.50	A	3.13	B	3.19	B
高等部	1	○安全面に配慮した指導ができたか。 ・生徒の身体や健康を把握し職員間で共通理解できたか。 ・授業や課外活動において、施設や工具類の安全な使用が徹底できたか。 ・校外での学習の安全面に留意できたか。	3.44	B	3.16	B	3.23	B
	2	○職業意識の確立を目指した授業の実践ができたか。 ・職員間で連携しながら、技術や知識の習得や資格取得への取組、進路指導など、職業意識の確立を目指すことができたか。 ・近隣の専門高校等との交流及び共同学習の充実を図ることができたか。	3.33	B	3.22	B	3.25	B
	3	○学力の向上や言語力の向上を目指した授業の実践ができたか。 ・「生徒が考える場面」を設定し、授業を展開することができたか。 ・個別の指導計画や教材、情報機器を生かして、指導方法の工夫・改善を進めることができたか。 ・基礎的・基本的な内容の定着を図るための指導方法の工夫・改善ができたか。 ・卒業後の進路や環境を考え、言語力の向上を目指した授業の工夫ができたか。	3.28	B	3.13	B	3.16	B
	4	○生徒の心をとらえた生活指導の実践ができたか。 ・様々な活動で生徒に使命感・責任感をもたせる指導ができたか。 ・基本的な生活習慣の確立を目指した指導ができたか。	3.17	B	3.13	B	3.14	B
	5	○家庭や寄宿舎、他学部と密に連携を図ることができたか。 ・連絡帳や学級通信、学級PTA、学部通信などで情報を共有し、家庭や寄宿舎と連携・協力することができたか。 ・情報を共有し、他学部や関係機関との連携の充実を図ることができたか。	3.22	B	3.11	B	3.14	B
寮務部	1	寄宿舎生活を通して、目録に沿った生活やあいさつ、マナー等の基本的な生活習慣が身に付くように働き掛けることができたか。(幼児児童生徒の普段の生活のあいさつやマナーから判断する。)	3.26	B	3.07	B	3.12	B
	2	異年齢集団の中での自治活動等を通して、自主性や協調性・思いやりを育てる支援ができたか。(幼児児童生徒の普段の生活や自治活動等の様子から判断する。)	3.00	B	3.05	B	3.04	B
	3	日常生活や学習時間を通して、言葉の拡充や学習の習慣化を支援することができたか。(舎生の学習や課題への取り組みから判断する。)	3.05	B	3.04	B	3.04	B
	4	健康で楽しく安全な生活を送らせるための環境美化と整備に努めることができたか。(寄宿舎での生活の様子、施設設備面の対応から判断する。)	3.37	B	3.27	B	3.30	B
	5	各学部や保護者と連絡を密にとり合い、連携を図ることができたか。(忘れ物等の状況や連携のあり方で判断する。)	3.26	B	3.04	B	3.09	B